「四季・植物」38　山百合

学名　Lilium　auratum　Lindl.
ユリ科の多年草
「山に生える百合」の意から名が付いた

郷土資料から見た「山百合（やまゆり）」のあれこれ

山百合は、昭和45(1970)年７月23日に市制30周年を記念して、市の花として選定された。これは郷土を花と緑でいっぱいにしようという市民運動の一つの目標を決めるためのもので、候補は市内全戸に「みんなでえらぶ柏崎市の木と花」のアンケートをして選ばれた。他にハマナス・ペチュニアの候補があったが、最終的に選ばれたのは山百合であった。

同時に選定された市の木はマツ（クロマツ・アカマツ）で、**『風雪に耐えて生き抜くマツの緑と、海風に揺れるヤマユリの高雅な香り、それは柏崎市民のこころである』**(「植物の友」)という。

ユリの球根は正しくは鱗茎と呼び、茎と葉が変化したものだが、山百合の鱗茎は苦みが少ないため、オニユリ、コオニユリと共に「百合根」と呼ばれる高級食材となる。

漢名「百合」は、球根の鱗片が多数重なり合うところから、名が付いたとされる。

参考資料

「図説　花と樹の大辞典」	植物文化研究会・雅麗篇	1996	「日本大百科全書」	小学館発行	1994
「植物の友」	柏崎植物友の会編	1970	「柏崎日報」	柏崎日報社発行	1970
「柏崎の植物」	柏崎の植物編集委員会編	1981	「料理食材大事典」	主婦の友社編	1996